

《専門教育科目》

科目名	Academic Reading I	科目ナンバリング	T02L21143
担当者氏名	Cuomo, Osaze Martin	担当形態	
授業方法	講義	単位・必選	1 ・ 選
		開講年次・開講期	1 年 ・ I 期

《授業の概要》

難易度の高いアカデミックなテキストにアプローチするための  
 ストラテジーを適用する。

Academic Reading Iは、アカデミックな文章を理解、批判的  
 思考、分析しながら読むために必要なスキルを身につけることを  
 目的としている。このコースでは、アクティブリーディング戦  
 略、語彙の増強、文章の構造と構成の理解、資料の評価などの  
 トピックを扱う。様々な分野のアカデミックな文章を読み、議  
 論や文学的な工夫、偏見などを見極める方法を学ぶ。このコー

《テキスト》

Reading Explorer Foundations, Third Edition  
 Tarver-Chase, B., Bohlke, D  
 National Geographic Learning, Cengage  
 ISBN: 978-0-257-11688-0

《参考図書》

《授業外学習》

今後の読書の準備をする。

《学習状況・理解度の確認》

自己評価、教授への相談、授業中のフィードバック

《備考》

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-3 教育・保育に関わる諸課題 について論理的に考える力	アクティブリーディングのための効果的なストラテジーを 開発する
○	3-1 教育・保育に関する知識・ 技能を更新し続ける力	・要なアイデアとそれを支える詳細を特定し、評価する。 ・批判的に読み、より深く理解するために分析する。 ・文章の構造と構成を理解する

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	0
小テスト	35
レポート	0
発表・実技	15
授業内課題	25
その他 ( )	25
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内 容	予習・復習 等の時間
1	Class Introduction	Why do we read?	Think about the importance of	45
2	Unit 1 Mysteries	A Mysterious Visitor	Reading 1A	45
3	Unit 1 Mysteries	The Lost City of Atlantis	Reading 1B	45
4	Unit 2 Eating Extremes	The World of Speed Eating	Reading 2A	45
5	Unit 2 Eating Extremes	The Hottest Chilies	Reading 2B	45
6	Unit 3 Cool Jobs	Digging for the Past	Reading 3A	45
7	Unit 3 Cool Jobs	Getting the Shot	Reading 3B	45
8	Quiz 1 Units 1-3	Small quiz on previous units, skills, and themes	Quiz preparation	45
9	Unit 4 Shipwrecks	I' ve Found the Titanic   Presentations	Reading 4A	45
10	Unit 4 Shipwrecks	My Descent to the Titanic   Presentations	Reading 4B	45
11	Unit 5 Science Investigations	The Disease Detective   Presentations	Reading 5A	45
12	Unit 5 Science Investigations	At the Scene of a Crime   Presentations	Reading 5B	45
13	Unit 6 Plants and Trees	Planting for the Planet   Presentations	Reading 6A	45
14	Unit 6 Plants and Trees	Fatal Attraction   Presentations	Reading 6B	45
15	Quiz 2 Units 1-6	Final quiz on previous units, skills, and themes	Prepare for final quiz	45

《専門教育科目》

科目名	Academic Writing I			科目ナンバリング	T02L21145
担当者氏名	Cuomo, Osaze Martin			担当形態	
授業方法	講義	単位・必選	1	・ 選	開講年次・開講期 1 年 ・ II 期

《授業の概要》

アカデミックライティング入門 このクラスでは、アカデミックライティングのスタイル、ライティングプロセス、リサーチストラテジーの理解など、アカデミックライティングの基本およびエッセイ、リサーチペーパー、その他のアカデミックな文書の書き方の基本を学ぶ。

《授業外学習》

今後のトピックやテーマについての考えを整理します。

《テキスト》

Great Writing 1, Fifth Edition  
Folse, K. S., Muchmore-Vokoun, A., Vestri, E.  
National Geographic Learning, Cengage  
ISBN: 978-0-257-09099-1

《学習状況・理解度の確認》

自己評価、教授への相談、授業中のフィードバック

《参考図書》

《備考》

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-1 豊かな人間性をもって人と関わる力	・明確で一貫性のある、構成のしっかりした学術的なエッセイやリサーチペーパーの執筆の準備として、基礎的文章が書ける
○	2-3 教育・保育に関わる諸課題について論理的に考える力	研究の重要性と効果的な研究の進め方を理解できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法 (%)	
試験	0
小テスト	20
レポート	30
発表・実技	0
授業内課題	30
その他 ( )	20
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	Class introduction	Why do we write?		45
2	Sentence Basics	Elements of great writing	Unit 1	45
3	Sentence Basics	Expressing place and time	Unit 1	45
4	Sentence Basics	Beginning and ending a sentence	Unit 1	45
5	Paragraph Basics	What is a paragraph?	Unit 2	45
6	Paragraph Basics	Supporting sentences	Unit 2	45
7	Paragraph Basics	Sequence words and phrases	Unit 2	45
8	Quiz	Quiz units 1-2	Units 1-2	45
9	Writing about the Present	Using the simple present   Presentations	Unit 3	45
10	Writing about the Present	Simple and compound sentences   Presentations	Unit 3	45
11	Writing about the Present	Editing   Presentations	Unit 3	45
12	Writing about the Past	Using the simple past   Presentations	Unit 4	45
13	Writing about the Past	Past time words and phrases   Presentations	Unit 4	45
14	Writing about the Past	Complex sentences with time clauses   Presentations	Unit 4	45
15	Quiz	Quiz units 1-4	Units 1-4	45

《専門教育科目》

科目名	異文化コミュニケーション論			科目ナンバリング	T02L21140
担当者氏名	未定			担当形態	
授業方法	講義	単位・必選	2	・選	開講年次・開講期 1年・Ⅱ期

《授業の概要》

《授業外学習》

《テキスト》

《学習状況・理解度の確認》

《参考図書》

《備考》

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	0
その他( )	0
合計	0

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

《専門教育科目》

科目名	英語音声学	科目ナンバリング	T02L21131
担当者氏名	笹平 康弘	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選
		開講年次・開講期	1 年 ・ II 期

《授業の概要》

英語指導に必要な英語の音声メカニズムをその音声体系における文節の特徴とプロソディの特徴および英語音声を自覚的に運用する方法を学ぶ。また、世界の様々な英語に触れることを通じて、英語の発音の多様性にも触れる。

《授業外学習》

- 教科書の指定箇所を読み、付属のCDで発音練習を行い、質問等を準備しておく；
- 専門用語の定義等を整理して理解しておく；
- テキストおよび講義内容を復習し、質問等の準備をしておく□

- 
- 
- 
- 
- 

《学習状況・理解度の確認》

- 課題はコメントを付けて返却する；
- 小テストについては、採点后、要点の解説をおこない、知識の定着を図る
- 発音ワークショップを実施し、音声の実践的側面をサポートする□

《備考》

英語音声学のテーマに関する音声実践を含む課題解決を中心としたグループワークに基づいたアクティブラーニングを実施するので、主体的かつ意欲的に授業に参加することを期待する。□

《テキスト》

「入門英語音声学」服部範子著 研究社 (ISBN: 978-4-327-42189-2) □

《参考図書》

随時指示する□

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力	英語の音声(単音、リズム、イントネーションなど)について理解し、調音方法などを説明・実演できる。
○	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	英語の音声について協働で取り組み英語の音声の特徴に慣れ親しむ。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	20
レポート	0
発表・実技	20
授業内課題	30
その他( )	30
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション□ □	本講義の概要と目標を理解し、毎回の学習内容と学習方法を確認する。□ □	テキスト pp. ii-iv□	45
2	英語の音声について学ぶ(1) □ □	音の単位(子音、母音)と調音器官との関係および音の連続からなる分節音のメカニズムを理解する。□	テキスト pp. 1-13□	60
3	英語の音声について学ぶ(2) □ □	日本語の50音図を使って、それぞれの日本語音の構成および調音点を学ぶとともに、VPM(有声・無声、調音位置、調音法)に基づいた発音形式	テキスト pp. 14-24□	60
4	英語の音の姿(1) □ □	英語の子音がその音声的環境に応じてどのように変化するか(異音)を理解する。□	テキスト pp. 27-32□	60
5	英語の音の姿(2) □ □	日本語の「ん」の特徴と英語の「ŋ」の特徴を学び、その比較を通して、双方の音声の共通点・相違点を理解する。□	テキスト pp. 32-42□	60
6	ネイティブのように聞く(1) □ □	綴りと音の関係、母音の音色変化をイギリス英語とアメリカ英語との比較を通して理解する。□	テキスト pp. 45-52□	60
7	ネイティブのように聞く(2) □ □	「l」の異音、音節主音としての子音および音声的環境に応じた音変化(連結、同化、削除)を学び、ネイティブの音声的直観を理解する。□	テキスト pp. 53-62□	60
8	ネイティブのように聞く(3) □ □	英語の強勢の位置、強勢の有無に応じた強形・弱形の区別を学び、そのイントネーション形成との関係を理解する。□	テキスト pp. 63-72□	60
9	ネイティブの発想(1) □ □	ネイティブの発話に見られるイントネーションの構造を学ぶとともに、その構造の「有標/無標」の焦点解釈との関係を理解する。□	テキスト pp. 73-81□	60
10	ネイティブの発想(2) □ □	会話におけるイントネーションの構造を、その原則、会話参加者の視点、否定表現などの要素と照らし合わせて、その構造がどのように形成	テキスト pp. 82-88□	60
11	英語のリズム(1) □ □	日本語と英語のリズムの特徴を学び、その違いを理解し、英語のリズム形成(フットの等時性)を理解する。□	テキスト pp. 89-93□	60
12	英語のリズム(2) □ □	英語のリズムをポピュラー音楽を通して学び、実践する。□ □	テキスト pp. 94-105□	60
13	世界の英語(1) □ □	イギリス英語およびアメリカ英語の地域的・階層的多様性について実際の音英を聞きながら理解する。□	配付資料(1) □ □	60
14	世界の英語(2) □ □	オーストラリア、南アフリカ、インドなどで話されている英語について、音声を通じて学び、その特徴を理解する。□	配付資料(2) □ □	60
15	まとめ□ □	本講義の全体を振り返り、英語指導における音声学の素養を備えていることの意義について議論し、理解を深める。□	講義内容の整理□ □	75

《専門教育科目》

科目名	英語学概論	科目ナンバリング	T02L21130
担当者氏名	笹平 康弘	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2
		開講年次・開講期	1年・I期

《授業の概要》

「母語について何を知っているか、また、その知識をどう運用しているのか」という問いに答えようと試みる言語学の中で、英語学概論では、英語を言語資料として、(1) 英語を知っているとはどういうことか、(2) その知識をどう運用しているのか、英語の様々な言語事象(音声、歴史、語彙、統語構造、意味構造、語用、言語と社会、言語習得)を概観することを通して、その基本的仕組みを学ぶ。

《テキスト》

「First Steps in English Linguistics (2nd Edition) - 英語言語学の第一歩」 景山太郎他著、くろしお出版 (ISBN: 978-4-87424-277-3)

《参考図書》

随時指示する

《授業外学習》

(1) 教科書の指定箇所を読み、質問等を準備しておく；(2) 専門用語の定義等を整理して理解しておく；(3) グループ活動報告書を隔週提出する；(4) テキストおよび講義内容を復習し、質問等の準備をしておく

《学習状況・理解度の確認》

(1) 課題はコメントを付して返却する；(2) 小テストについては、採点后、要点の解説をおこない、知識の定着を図る

《備考》

英語学のテーマに関する問題解決を中心としたグループワークに基づいたアクティブラーニングを実施するので、主体的かつ意欲的に授業に参加することを期待する。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力	英語の音声的・語彙的・統語及び意味的・歴史的特徴およびその基本構造について理解し、説明できる。
○ 2-3 教育・保育に関わる諸課題について論理的に考える力	英語学の諸分野について、協働して課題解決ができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	20
レポート	20
発表・実技	10
授業内課題	20
その他( )	30
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	本講義の概要と目標を理解し、毎回の学習内容と学習方法を確認する。	テキスト pp. 2-8	45
2	なぜ英語学を学ぶのか□	英語の構成要素(音声、語彙、意味など)を概観することを通して、「英語を知っているとはどういうことか」について考える。□	テキスト pp. 9-20□	60
3	英語の歴史的変遷□	複合語、派生語、屈折語などの構造的特徴を学び、語形成のメカニズムを理解する。□	テキスト pp. 21-32□	60
4	英語の語形成□	複合語、派生語、屈折語などの構造的特徴を学び、語形成のメカニズムを理解する。□	テキスト pp. 33-44□	60
5	英語の語彙意味論(1) □	語彙レベルの意味がどのように構成され、理解されるかについて語彙意味論の観点から考察する。□	テキスト pp. 45-56□	60
6	英語の統語論(1) □	名詞句、動詞句、などの句がどのように組み立てられるかを学び、英語の統語構造の基本を理解する。□	テキスト pp. 57-68□	60
7	英語の統語論(2) □	助動詞、時制、などを含む英文がどのように組み立てられるかを学び、文レベルの統語構造の基本を理解する。□	テキスト pp. 69-80□	60
8	英語の意味論(2) □	動詞が選択する主語や目的語の役割を考察することにより、動詞の自動詞・他動詞区別をその動詞の意味構造から直観的に理解する。□	テキスト pp. 81-93□	60
9	英語の語用論□	英語の「文字通り」の意味が実際のコミュニケーションでどのように変化・運用されるかについて、発話行為、会話の協調原理などの理論を通	テキスト pp. 94-106□	60
10	英語の音声□	英語の音声と意味の関係、イントネーション、音節構造を学び、英語の音声的特徴を理解する。□	テキスト pp. 120-132□	60
11	英語の地域的多様性□	世界共通語としての英語、地域・国際的変種を学び、英語の多様性について理解する。□	テキスト pp. 120-132□	60
12	英語の社会言語学□	標準・非標準英語、社会階層における英語の違いを文法・語彙・音声の観点から考察する。□	テキスト pp. 133-145□	60
13	英語の習得(第一言語) □	第一言語としての英語の習得過程を、音韻、語彙、統語、意味の発達の観点から考察する。□	テキスト pp. 158-165□	60
14	英語の習得(第二言語) □	第二言語および外国語としての英語の習得過程を、母語の特徴、学習者の外的要因、個体差の観点から考察する。□	テキスト pp. 158-165□	60
15	まとめ□	本講義の全体を振り返り、英語指導における英語学的素養を備えていることの意義について議論し、理解を深める。□	講義内容の整理□	75

《専門教育科目》

科目名	英語文学概論	科目ナンバリング	T02L21136
担当者氏名	増田 純一	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2
		開講年次・開講期	1年・I期

《授業の概要》

主に英米を中心に、その発生から現代までの作家、文学作品等、英語教育に必要な基礎的知識を歴史も踏まえて解説する。特に重要な作品においては英語原文を読み、特徴的な語法や文法、扱われているテーマ等を考察し、分析方法を学ぶ。また、その実践を発表してもらい、ディスカッションし、理解を深める。

《授業外学習》

必要

《テキスト》

An Outline of English Literature 『イギリス文学概観』 相島倫嘉著、南雲堂 2004

An Outline of American Literature 『アメリカ文学概観』 井上謙治著、南雲堂 2007

《参考図書》

『はじめて学ぶイギリス文学史』 神山妙子編著、ミネルヴァ書房 1989

『はじめて学ぶアメリカ文学史』 板橋好枝、高田賢一編著、ミネルヴァ書房 2001

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	英米の主要な作家、英語で書かれた文学作品、各作品成立の歴史的背景、詩・戯曲・小説の各々の文体の特徴等、英語を学ぶ上で必要な基礎的知識を身に付ける
○ 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	時系列に沿って作家、作品を概観しながら、実際にいくつかの文学作品の抜粋を読み、文学に使用される英文の読解力を養い、基礎的知識を身に付ける

《学習状況・理解度の確認》

実践を発表してもらい、ディスカッションし、理解を深める。

《備考》

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	50
小テスト	20
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	0
その他(授業態度)	30
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	英語教育と英語文学	英語文学の背景 聖書とギリシア・ローマ神話	テキストにざっと目を通してお	45
2	イギリス文学	イギリスという国 古英語と中英語 チョーサー、シェイクスピア他	テキストpp. 9-18を読み、英文中	60
3	欽定訳聖書	ミルトン、リチャードソン、オースティン他	テキストpp. 19-24を読み、英文	60
4	ロマン主義	ブレイク、ワーズワス、コールリッジ他	テキストpp. 25-30を読み、英文	60
5	ヴィクトリア時代について	デニソン、ブラウニング	テキストpp. 31-33を読み、英文	60
6	イギリス小説①	ディケンズ、ハーディ他	テキストpp. 34-40を読み、英文	60
7	イギリス小説②	D. H. ロレンス、ジョイス、T. S. エリオット他	テキストpp. 41-46を読み、英文	60
8	アメリカ文学①	アメリカの独立 黎明期 フランクリンからポーまで	テキストpp. 7-17を読み、英文中	60
9	アメリカ文学②	エマソン、ソロー、ホーソン、メルヴィル	テキストpp. 18-21を読み、英文	60
10	アメリカの詩①	ホイットマン、ディキンソン他	テキストpp. 22-23を読み、英文	60
11	アメリカの詩②	トウエイン、ジェイムズ他	テキストpp. 24-32を読み、英文	60
12	ロスト・ジェネレーション	フィッツジェラルド、ヘミングウェイ、フォークナー他	テキストpp. 33-35を読み、英文	60
13	1930年代	スタインバック他	テキストp. 36を読み、英文中の	60
14	ユダヤ文学と黒人文学	サリンジャー、ベロー、マラマッド、モリスン他	テキストpp. 37-42を読み、英文	60
15	現代作家	アップダイク、ピンチョン他	テキストpp. 43-46を読み、英文	60

《専門教育科目》

科目名	学校教育におけるICT活用			科目ナンバリング	T03S11073
担当者氏名	森下 博			担当形態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2	・ 必	開講年次・開講期
					1 年 ・ II 期

《授業の概要》

学校教育においてGIGAスクール構想が進み、児童生徒1人1台のPCやタブレット端末を用いた教育環境が整ってきました。ICT環境の充実とともに、校務および授業の教材開発に関わる上でのICTスキルの向上が求められます。学校教育のあらゆる場を想定しながら、各種アプリケーションソフトを用いたICT活用により、知識と技術を身につけます。各教科の指導においても効果的なICT活用ができることを目指し、深い学びにつながる可能性を探ります。

《テキスト》

授業では、eラーニングサーバを活用し、作成した資料を提示します。さまざまなメディアによるコンテンツにもふれてもらいます。

《参考図書》

高橋参吉編著、高橋朋子・下倉雅行・小野淳・田中規久雄著、2021、『教職・情報機器の操作 -ICTを活用した教材開発・授業設計-』コロナ社

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力	ワープロソフトの機能や役割を理解し、校務や授業教材などの文書作成が行える。
		表計算ソフトの機能や役割を理解し、正確で効率的な集計処理が行える。
		プレゼンソフトの機能や役割を理解し、視覚的に見せる教材資料の開発が行える。
○	2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する力	遠隔授業のための環境を整えて、授業の設計ならびにその実践が行える。
		探究学習における課題解決のアプローチの方法を身につけ、適切なICT活用ができる。

《授業外学習》

eラーニングサーバを活用しますので、いつでもどこでも端末からアクセスして配布資料の取得や課題の提出などが可能です。学んだ内容については、理解を深めながら確実に身につくよう授業外でもしっかり復習して下さい。正解が一つしかないような課題ではなく、多様なものの考え方やその表現をテーマとした課題に取り組みます。スキルを活かした処理と思通りの表現ができるよう、自主的な学習の取り組みに期待します。

《学習状況・理解度の確認》

その日の学習内容の進捗状況と理解度を把握するための提出をおこなってもらいます。フィードバックの内容を次に活かして下さい。分からないことはオフィスアワーなどで質問を受け付けます。

《備考》

ICTの特徴や方法を理解した上で、適切なICTの活用ができるように努めてもらいたと思います。スキルの向上とともに効果的な教材開発につなげられるとよいです。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	40
発表・実技	30
授業内課題	30
その他( )	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	授業概要と展開方法	授業の概要や展開の方法を説明する。学校教育における具体的なICT活用の事例について紹介する。	授業展開の把握	60
2	文書作成のためのICT活用	文書作成のためのワープロソフト活用の基礎を身につける。文書完成までのICTリテラシーについて学ぶ。	ワープロソフト	90
3	校務文書の作成と編集	校務文書作成の演習を通じてその書式や型を理解する。そのための正しい編集や美しい装飾の仕方について学ぶ。	校務の文書作成	90
4	教材資料の作成と表現	教材資料作成の演習を通じて効果的な伝え方を理解する。そのための表や図を含む視覚的な表現について学ぶ。	教材の文書作成	90
5	集計処理のためのICT活用	集計処理のための表計算ソフトの活用の基礎を身につける。シート上で正しいデータの入力と整理の仕方について学ぶ。	表計算ソフト	90
6	データの処理と視覚化	集計処理シート制作の演習を通じて表の効率的な計算方法を理解する。各種グラフの特徴に基づく視覚化について学ぶ。	シートの作成	90
7	アプリ間連携と効率化	報告文書制作の演習を通じて表計算ソフトとワープロソフトとの連携を理解する。これによる処理の効率化について学ぶ。	アプリ間連携	90
8	教材開発のためのICT活用	教材開発のためのプレゼンソフトの活用の基礎を身につける。スライドに取り込む各種メディアとコンテンツについて学ぶ。	プレゼンソフト	90
9	視覚的なスライド制作	教材スライド開発の演習を通じてスライドの見せ方を理解する。効果的なアニメーションの設定や使い方について学ぶ。	視覚的な効果	90
10	動画による教材の開発	動画教材の開発の演習を通じて音声を含む動画の制作過程を理解する。動画を用いた学習効果について学ぶ。	動画の教材作成	90
11	遠隔授業のためのICT活用	遠隔授業のための双方向通信ツールの活用の基礎を身につける。音声と映像のスムーズなやりとりの仕方について学ぶ。	遠隔授業の環境	90
12	オンライン授業の設計	遠隔授業で使用できるメディアコンテンツを理解する。オンライン授業のための設計について学ぶ。	各種メディア	90
13	オンライン授業の実践	遠隔授業の実践を通じて効果的な機能を理解する。オンラインにおけるチャットの活用やグループ学習の展開について学ぶ。	協働学習	90
14	探究学習のためのICT活用	探究学習における課題解決のアプローチの方法を身につける。プログラミング的思考と適切なICT活用の方法について学ぶ。	探究的な学習	90
15	授業総括と振り返り	学校教育におけるICT活用を振り返る。ICTを活用できる場面を想定した各教科への適用について考える。	授業の振り返り	60

《専門教育科目》

科目名	教育におけるICT活用の理論と方法			科目ナンバリング	T04L22097
担当者氏名	河野 稔			担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2	・ 選	開講年次・開講期 2年・I期

《授業の概要》

児童生徒1人1台端末による学習環境が整備され、ICT（情報通信技術）による個別最適な学びと協働的な学びが実現できるようになった。この科目は、主体的・対話的な深い学びの実現のためのICT活用指導力の養成を目指し、ICTを活用した学習活動の意義を理解し、学習場面に応じたICTを活用した授業の設計と準備、児童生徒の情報活用能力を育成するための指導法、教師や学校を支援するツールとしてのICTの活用について学ぶ。また、各教科等のデジタル教材を作成する演習にも取り組む。

《テキスト》

稲垣忠・佐藤和紀編著（2021）『ICT活用の理論と実践』北大路書房  
文部科学省（2020）『教育の情報化に関する手引き-追補版-』

《参考図書》

稲垣忠編著（2022）『教育の方法と技術 Ver.2（改訂版）』北大路書房、文部科学省『教育の情報化の推進』、文部科学省（2017）『小学校学習指導要領解説 総則編』等

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力	情報社会の進展に伴うICTを活用した教育の意義と教育データを活用した個別最適な学び等の将来像を説明できる。 学校のICT環境の整備に伴う、校務の情報化や外部人材などの活用、情報セキュリティ対策のあり方を説明できる。
○	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を	オンライン教育を含めた学習場面に応じて、ICTを効果的に活用した授業を計画し、デジタル教材を作成できる。
○	2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する	各教科等の特性に応じて、児童生徒がICTを活用して個別あるいは協働的に学ぶための基本的な指導法を説明できる。

《授業外学習》

予習では、毎回の授業までに、テキストの該当箇所、あるいは、LMS（学習支援システム）で公開されるプリントを事前に通読すること。復習では、毎回の授業のテーマに沿った課題に取り組むこと。デジタル教材の教材企画書の作成、教材の作成とその発表は、授業中に作成および発表準備の時間は取れないため、グループのメンバーで協力して授業外時間に制作活動を進めておくこと。

《学習状況・理解度の確認》

小テストや提出物にはコメントを付して返却するとともに、口頭発表には講評を行う。オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

ディスカッションやグループワークやプレゼンテーションを行う、ICT活用双方向授業です。とくにデジタル教材の作成はグループで活動します。主体的かつ意欲的に授業に参加することを期待します。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	30
発表・実技	30
授業内課題	40
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	教育の情報化とGIGAスクール構想の現状を確認し、現代社会におけるICTの役割、ICTを活用した教育の意義を概観する。	テキスト第1章を通読	45
2	教育における視聴覚メディアとコンピュータ活用の展開	視聴覚メディアとコンピュータの学校教育での歴史的展開を理解し、学校でのメディアと技術の活用を議論する。	テキスト第2～3章、第7章を通読	60
3	教師のICT活用指導力とデジタルコンテンツの活用	デジタル教科書等のデジタルコンテンツの特性と活用のあり方を踏まえて、教師に求められるICT活用指導力を理解する。	テキスト第5章、第8～9章を通読	90
4	対話的な学びと個別最適な学びを支えるICT	ICTを活用した協働学習の特性や個別最適化された学びの意義を理解し、先端技術を含めた活用のあり方を議論する。	テキスト第4章、第10～11章を通読	60
5	特別支援教育と幼児教育におけるICT活用	特別支援教育と幼児教育でのICT活用の意義と現状を確認し、実践事例から活用するための留意点を理解する。	テキスト第6章、第13章を通読	60
6	遠隔授業・オンライン学習と学びの保障	遠隔授業やオンライン学習の特性と活用方法および著作権等の留意点を理解し、ICTによる学びの保障について議論する。	テキスト第12章を通読	60
7	校務の情報化と教育データの活用	校務支援システム等による校務の情報化を理解し、教育データの種類や活用、情報セキュリティ等の課題を確認する。	テキスト第14章を通読	60
8	児童生徒によるICT活用	児童生徒によるICT活用の意義と各教科における学習場面を確認し、日常的にICTを活用するための留意点を理解する。	テキスト第15～16章を通読	60
9	情報活用能力と情報モラル教育	情報活用能力における情報モラル教育の位置づけを確認し、実践事例をもとに授業づくりの考え方を議論する。	テキスト第18章を通読	60
10	プログラミング教育で育成する資質・能力	プログラミング教育のねらいや位置づけを理解して、具体的な授業方法や授業をする際の留意点を理解する。	テキスト第17章を通読	90
11	探求を支える情報活用能力	探求の基盤となる資質・能力と情報活用能力の関係を確認し、学校図書館の活用等の実践事例から指導法を理解する。	テキスト第19～20章を通読	90
12	デジタル教材の作成と活用(1)教材の企画検討	ICTを活用した教材作成として、グループで作成するデジタル教材を設計して、指導内容を企画書としてまとめる。	教材企画書の作成	120
13	デジタル教材の作成と活用(2)教材の作成	実際にICT機器を使用して、グループで設計したデジタル教材を作成する。	デジタル教材の作成	120
14	デジタル教材の作成と活用(3)教材の発表と相互評価	グループで作成したデジタル教材を発表し、共有をして相互評価をして、改善点を検討する。	デジタル教材の作成と発表準備	120
15	全体のまとめとICT活用指導力の向上	教師のICT活用指導力に求められる資質・能力をまとめ、ICT活用指導力の向上とその留意点について考察する。	ICT活用指導力チェックリストの確認	45



《専門教育科目》

科目名	教育の思想と原理	科目ナンバリング	T04L11082
担当者氏名	安喰 勇平	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 必
		開講年次・開講期	1 年 ・ I 期

《授業の概要》

教育は世代間の相互作用、学校・家庭・地域社会の間の相互作用として営まれている。その歴史はイニシエーションとしての教育から、学校教育制度の成立を経て、生涯学習の時代に至っている。このような歴史的変遷の中で、教育は何のために営まれ、学校は何のために存在してきたのか。本授業では、教育の理念や思想が生み出された歴史的・社会的な背景を学びつつ、現代の教育課題に主体的に取り組むための姿勢を身につけることが期待される。

《テキスト》

資料を配付する。

《参考図書》

小笠原道雄編『教育の哲学』放送大学教育振興会、2003年。越後哲治・田中亨胤・中島千恵編『保育・教育を考える－保育者論から教育論へ－』あいり出版、2011年。その他、授業で適宜紹介する。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
	教育の理念や思想が生み出された歴史的・社会的な文脈を説明することができる。
	現代の教育課題に主体的に取り組むことができる。

《授業外学習》

- ・授業前に配布資料を読み、学習の手引きに沿って自学自習する。
- ・授業後、紹介された文献や参考図書を読み、理解を深める。

《学習状況・理解度の確認》

授業中に課題作文に取り組み、知識の定着を図る。課題作文に対するコメントから自分の理解度を確認し、次の学習への動機づけを得る。

《備考》

- ・グループワークやディスカッションを行う。
- ・意欲的に授業に参加することを期待する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	50
発表・実技	0
授業内課題	50
その他( )	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	教育をめぐる現代的課題	一般的な教育言説を確認しながら、教育を根本的に問うための方法を学ぶ。	資料に基づく学習と作文	90
2	学校をめぐる現代的課題	学校をめぐる問題が山積している点を確認しながら、学校の存在意義を問うための方法を学ぶ。	資料に基づく学習と作文	90
3	教育の語義	すでに経験している日常の教育を振り返りつつ、教育の語義を確認する。	資料に基づく学習と作文	90
4	教育の目的・目標	教育基本法に定められた教育目的、教育目標を確認しながら、その具体的な内容を事例に即して検討する。	資料に基づく学習と作文	90
5	人間性とは何かという問いの歴史的・社会的文脈	人間性とは何かという問いの歴史的・社会的な意味を、古代ギリシア・ローマの時代にさかのぼって検討する。	資料に基づく学習と作文	90
6	学校の起源	文字によって体系化・集約化された知識を教授・学習する場として、学校が成立した点を確認する。	資料に基づく学習と作文	90
7	大学の成立と庶民のための学校の誕生	12世紀のヨーロッパで大学が成立し、16世紀のルターが庶民のための学校を構想した歴史的経緯を学ぶ。	資料に基づく学習と作文	90
8	人間の教育必要性の意味	社会から隔離されて育ち、教育の機会を奪われた野生児の事例から、人間の教育必要性の意味を検討する。	資料に基づく学習と作文	90
9	子どもへの教育的まなざしの成立	ルソーの教育思想やアリエスの歴史研究から、子どもに注がれる教育的まなざしの意味を検討する。	資料に基づく学習と作文	90
10	家庭教育の意味	家庭教育の歴史的・社会的な意味を確認しながら、現代における家族や家庭生活の問題を検討する。	資料に基づく学習と作文	90
11	近代公教育の理念と制度	学校が公の性質を持つようになった歴史的経緯を跡づけながら、啓蒙主義と学校教育制度の問題を検討する。	資料に基づく学習と作文	90
12	統一学校運動と新教育運動	19-20世紀転換期のヨーロッパで起こった統一学校運動と新教育運動の理念と実際を検討する。	資料に基づく学習と作文	90
13	学校化社会の限界	学校教育を自明視する学校化社会、学歴を社会におけるステータスシンボルとみなす学歴社会の限界を検討する。	資料に基づく学習と作文	90
14	生涯学習社会における学校の役割	教育は生涯にわたって継続するものであるという観点から、生涯学習社会における学校の役割を検討する。	資料に基づく学習と作文	90
15	情報・消費社会における教育と学校	情報メディアによって人々の欲望が刺激され、消費が促される社会で、教育と学校には何ができるのかを展望する。	資料に基づく学習と作文	90

《専門教育科目》

科目名	教育課程論	科目ナンバリング	T04L11091
担当者氏名	關 浩和	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 必
		開講年次・開講期	1 年 ・ II 期

《授業の概要》

近年の教育改革では、特色ある学校づくりが求められるようになってきている。学校づくりの核となるのが、教育の内容及び方法の選択・組織に関わる教育課程である。本講義では、我が国の教育課程の基準としての学習指導要領の歴史の変遷を実践的視点からその諸理論を概観して、今日の教育改革や教育課程改革を理解し、そこに潜む問題や課題を把握し、新しい学校教育の展開と特色ある教育課程についてあり方について学ぶ。

《テキスト》

關浩和 (2023) 『教育課程論研究』吉本宝文堂, 176p.  
初回の講義の時に配付します。  
頒布価格 1,000円。受講生は、必ず購入してください。

《参考図書》

- ・文部科学省(2017)『小学校学習指導要領』、文部科学省(2017)『小学校学習指導要領解説』を適宜参照する。
- ・授業の中で、適宜プリントを配付する。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	教育課程の構造や教育課程開発理論、編成原理に関する基礎知識及びその関連性を説明することができる。
○ 2-3 教育・保育に関わる諸課題について論理的に考える力	社会的背景を加味して学習指導要領の歴史の変遷を説明したり、カリキュラム・マネジメントにおける教師の役割について説明することができる。

《授業外学習》

・講義ノートを準備して、授業外で必ずテキストを読み、予習・復習を行い、毎回の講義内容の整理を行い、講義ノートにまとめることで各自1冊のノート(=ポートフォリオ)づくりを行うこと。

《学習状況・理解度の確認》

- ・講義ノートを適宜点検します。
- ・分からないことは、適宜質問を受け付ける。

《備考》

- ・受講者には、主体的に授業に参加することを期待する。  
Education Curriculum Theory

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	30
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	40
その他(受講ノートを点検します。)	30
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	教育課程の編成原理	教育課程は、教育基本法や学校教育法、学校教育法施行規則、学習指導要領などに基づいて編成されていることや、「学問中心主義」と「子ども中心主義」の違いを説明することができる。	テキストを読む 内容整理	60
2	国家主義教育課程の成立過程①	学校制度が始まるまでの日本の古代から近世(藩校や寺子屋の教育法)に至る教育の歴史を概観する。	テキストを読む 内容整理	60
3	国家主義教育課程の成立過程②	文明開化の欧化主義と復古的儒教主義との間で揺れていた日本の教育が、天皇制国家主義教育の確立に至った経緯を概観する。	テキストを読む 内容整理	60
4	大正期新教育運動によるカリキュラム改革	大正デモクラシーの時代の風潮の中で、子どもの個性や自主性の尊重を旗印として起こった大正自由教育を概観する。	テキストを読む 内容整理	60
5	戦後「新教育」のカリキュラム改革	中央集権的で画一的な教育編成を改め、アメリカの進歩主義教育思想に基づく教育課程編成論を概観する。	テキストを読む 内容整理	60
6	学習指導要領に見る教育課程の変遷①	経験主義による教育内容の改造を図った昭和22年版学習指導要領について教育内容を把握した上で、各グループで分析結果をプレゼンテーションする。	テキストを読む 内容整理	60
7	学習指導要領に見る教育課程の変遷②	経験主義による4領域を打ち出して教育内容の改造を図った昭和26年版学習指導要領について教育内容を把握した上で、各グループで分析結果をプレゼンテーションする。	テキストを読む 内容整理	60
8	学習指導要領に見る教育課程の変遷③	高度経済成長時代に入り、系統主義による教育内容の改革を図った昭和33年版学習指導要領について、特徴と課題をワークショップで明らかにする。	テキストを読む 内容整理	60
9	学習指導要領に見る教育課程の変遷④	「教育内容の現代化」を図った昭和43年版学習指導要領の歴史の変遷について社会的背景を基に読み解き、特徴と課題をワークショップで明らかにする。	テキストを読む 内容整理	60
10	学習指導要領に見る教育課程の変遷⑤	現代化カリキュラムは過密という批判の中からゆとりカリキュラムとなった昭和52年版学習指導要領の特徴と課題をワークショップで明らかにする。	テキストを読む 内容整理	60
11	学習指導要領に見る教育課程の変遷⑥	「生きる力」と「ゆとり」を打ち出した平成元年・平成10年版学習指導要領までの歴史の変遷を理解し、特徴と課題をワークショップで明らかにする。	テキストを読む 内容整理	60
12	学習指導要領に見る教育課程の変遷⑦	”最低基準性”を打ち出した学習指導要領の一部改訂の動向と背景についてケーススタディにより明らかにする。更に平成20年版学習指導要領を取り上げる。	テキストを読む 内容整理	60
13	学習指導要領に見る教育課程の変遷⑧	平成29年版学習指導要領を取り上げ、資質・能力の育成やカリキュラム・マネジメント、主体的・対話的で深い学びを重視した新学習指導要領について教育内容を把握した上で、各グループで分析結果をプレゼンテーションする。	テキストを読む 内容整理	60
14	組織論による特色ある教育課程開発の理論と実際	地域の特性や保護者のニーズ、子どもの特性、学校の教育課題などを視点とした特色あるカリキュラムを実践している学校のカリキュラム・マネジメントについて考察する。	テキストを読む 内容整理	60
15	教師の役割及び教育課程の評価的研究・総括	カリキュラム・マネジメント及びカリキュラムの一部としての教師の役割について考察する。講義全体を振り返り、残された疑問点に関する質問を行う。	テキストを読む 講義の総括	60

《専門教育科目》

科目名	教育社会学	科目ナンバリング	T04L22087
担当者氏名	吉原 恵子	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選
		開講年次・開講期	2 年 ・ II 期

《授業の概要》

教育とは、人を望ましい方向へと変化させる営みである。一面では、教育は教育を行う者と教育を受ける者の間に起こる社会的相互作用である。他方、特定の社会のなかで、教育は一定の価値観に基づき法律や制度を介して行われる。すなわち、教育は社会的産物であり、社会現象としてさまざまな問題を生み出すものでもある。本講義では、教育を社会学的に捉える視点を養い、教育現場の諸課題について考察していく。

《テキスト》

『教育社会学（新しい教職教育講座 教職教育編③）』原清治・山内乾史 編著（ミネルヴァ書房）

《参考図書》

『教育の社会学 ～常識の問い方 直し方～ 新版』荻谷剛彦 他著（有斐閣）、『よくわかる教育社会学』酒井朗 他編著（ミネルヴァ書房）

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	現代の教育問題に関心を持ち、現状のみならず、その背景や原因について情報・知識をもとに説明できる。
○	2-3 教育・保育に関わる諸課題について論理的に考える力	教育問題について批判的に捉えるだけでなく、データ等を用いて多面的に分析し、解決に向けた考えをまとめて発表できる。

《授業外学習》

- (1) テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を示したレジュメを配布します。授業のふり返りに活かしてください。
- (3) レジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これらについて、授業後に復習して説明できるようにしてください。
- (4) 日頃より、教育問題について関心を持って考える習慣をつけてください。

《学習状況・理解度の確認》

- ・課題やレポートは、全体的講評し、個別にコメントを付して返却する。
- ・学修の到達度について、学生が確認できるよう適時、得点率等を示す。

《備考》

とくにグループワーク、プレゼンテーションでは、主体的・協働的な取り組み態度が求められる。教職に就く者としての自覚をもって学ぶことを期待する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	45
小テスト	20
レポート	10
発表・実技	10
授業内課題	15
その他( )	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	教育社会学の視点	教育社会学の視点について理解する。教育社会学の成立の背景、社会移動、学歴社会などを中心として教育や学校の社会的機能を説明できる。	該当章を読む／専門用語理解	60
2	学歴社会と学力(1)	学歴社会の基本構造、身分制社会から学歴社会への転換、日本社会のエリートなどについて説明できる。	該当章を読む／専門用語理解	60
3	学歴社会と学力(2)	学歴社会は業績社会なのかについて考察し考えをまとめることができる。	該当章を読む／専門用語理解	60
4	学校で起こる問題	いじめや不登校など学校やその周辺で起こる問題について、現状と背景・原因について説明できる。	該当章を読む／専門用語理解	60
5	子どもをめぐる問題	子ども期や青年期の誕生について理解し、電子メディアと子どもの関わりや育児メディアなどについて問題点を説明できる。	該当章を読む／専門用語理解	60
6	子どもの貧困と教育支援	日本における子どもの貧困の実態を理解し、子どもの貧困対策と教育支援、学校の役割について説明できる。	該当章を読む／専門用語理解	60
7	非行と逸脱	少年非行の現状を理解し、少年非行に対する社会学的アプローチ、社会の変化と教育問題の心理主義化・医療化について説明できる。	該当章を読む／専門用語理解	60
8	子どもの社会学（討議）	学校や子どもをめぐる問題について社会学的に理解し、問題の分析を行うとともに、解決策や今後の展望について議論し結論を発表できる。	テーマに関する資料収集とまと	60
9	教師をめぐる問題	教師の役割について社会学的にアプローチするとともに、教職の多忙化・バーンアウト、変わる教員養成の現状について説明できる。	該当章を読む／専門用語理解	60
10	学校における他職種協働	生徒指導に関わる職種の多様化、多職種の配置による教員の役割の変化について理解し、学校における多職種協働について説明できる。	該当章を読む／専門用語理解	60
11	地域社会と教育	地域社会が果たす教育上の役割とその変容について、子どもと地域の大人のつながり、地域で支える学校づくりを中心として説明できる。	該当章を読む／専門用語理解	60
12	ジェンダーと教育	教育分野におけるジェンダー・ギャップについて理解し、隠れたカリキュラムやジェンダーの多様性を考える視点について説明できる。	該当章を読む／専門用語理解	60
13	リスク社会における教育格差	リスク社会と教育をめぐる格差問題について理解し、日本社会における教育費負担、子どもの貧困問題と学力保障について説明できる。	該当章を読む／専門用語理解	60
14	教育と多様性（討議）	変化する教育の現状について理解するとともに、多様性をめぐる諸課題について解決策や今後の展望について議論し結論を発表できる。	テーマに関する資料収集とまと	60
15	知識基盤社会と教育改革	知識基盤社会と生涯学習社会について理解し、キーコンピテンシーや社会関係資本と教育改革について説明できる。	該当章を読む／専門用語理解	60

《専門教育科目》

科目名	教育制度論	科目ナンバリング	T04L11086
担当者氏名	古田 薫	担当形態	
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 必
		開講年次・開講期	1 年 ・ II 期

《授業の概要》

教育行政の組織と機能および学校教育に必要な法令や制度の基本、重要語句・概念についての理解を深め、教員となるために必要な教育制度や学校経営についての体系的な知識を獲得する。教育法規の体系や、教育の理念・目的・目標、教育の機会均等を実現するための教育行政の仕組みや学校制度、学校運営について学習するとともに、今日の教育の課題と教育改革の動向を理解し、学校制度・学校経営の視点から考察することにより自分自身の考えを深める。

《テキスト》

『法規で学ぶ教育制度（よくわかる！教職エクササイズ7）』（古田薫、山下晃一編著 ミネルヴァ書房）  
必要に応じてプリントを配布する

《参考図書》

『解説教育六法』三省堂  
『図解・表解 教育法規“確かにわかる”法規・制度の総合テキスト』坂田 仰他、教育開発研究所

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 1-3 多様な人と協働し、地域社会に貢献する力	教育行政の仕組みや学校制度、学校運営、地域連携について理解している。
○ 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	教育法規の基本と、教育の理念や目的・目標について理解し、義務教育の意義および特別支援教育の特質を説明できる。
○ 2-3 教育・保育に関わる諸課題について論理的に考える力	今日の教育の課題と教育改革の動向を理解し、自分自身の考えを述べるができる。

《授業外学習》

- ・授業の前までに教科書の当該箇所目を通しておく。
- ・授業の要点をまとめたノートを作成する。

《学習状況・理解度の確認》

授業の終わりに提出するリアクションペーパーで理解度を把握し、補足や質問に対する回答を行う。  
小テーマごとにミニテストを実施する。

《備考》

- ・必要に応じてグループ学習やディスカッションを実施する。
- ・配布資料は順番に整理し、ファイルに保存しておくこと。
- ・授業でわからなかった点は調べたり、次回の授業時に質問すること。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	20
その他（まとめノート提出）	20
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	教育行政と教育制度の基礎知識	・教育制度を学ぶ意義を理解する。 ・教育行政、教育制度の基本概念を理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
2	法体系と教育関係法規の概要	・法規の体系と、日本の教育制度の法的・制度的枠組みを理解し、その課題について考察する。	テキスト予習 まとめノートの	45
3	憲法教育基本法制①教育に関する規定	・憲法における教育に関する規定、教育制度の法的基盤を理解する。 ・教育基本法改正の背景とポイントを理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
4	憲法教育基本法制②教育基本法	・教育基本法の意義と内容を理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
5	学校教育の基本	・学校教育の目的と目標、学校教育に関する様々な基本的法規を理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
6	教育行政のしくみ①文部科学省と教育委員会	・文部科学省と教育委員会の関係と役割分担を理解する。 ・中央教育審議会やその他の諮問機関の役割と影響を理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
7	教育行政のしくみ②教育委員会	・教育委員会制度の成立と発展の歴史を理解する。 ・教育委員会制度の概要と意義を理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
8	教育を受ける権利の保障	・教育を受ける権利を保障するための義務教育制度、就学援助、教育扶助の概要を知る。	テキスト予習 まとめノートの	45
9	学校の組織と運営①チーム学校	・学校運営の基本原則とチーム学校の意義を理解する。 ・学校評価について理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
10	学校の組織と運営②学校運営の管理	・学校運営におけるさまざまな管理を理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
11	学校の組織と運営③保護者・地域に関する法規	・学校と保護者・地域に関する法規と制度を理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
12	教育課程・教育活動に関する法規、学校指導要領	・学校教育における学習指導要領教育学的・法的位置づけ、意義及び取り扱いについて理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
13	学校運営と学校安全	・学校安全/学校保健の目的と必要性を理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
14	児童生徒に関する法規	・就学と在学、卒業、懲戒および出席停止に関する法規を理解する。	テキスト予習 まとめノートの	45
15	児童生徒をめぐる様々な問題	・学校におけるさまざまな問題とそれらに対する対応等について理解する。	学校における諸問題についてレ	90

《専門教育科目》

科目名	教育相談	科目ナンバリング	T04L22099
担当者氏名	新井 肇	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選
		開講年次・開講期	2 年 ・ II 期

《授業の概要》

この授業では、教育相談の原理とともに、カウンセリング、心理検査、心理療法等の学校心理学に関する理論と実践について理解を深め、教育相談の基礎的知識や基本姿勢を習得する。そのうえで、現代の教育現場の実情と心の問題について具体的、実践的に対応できるよう「いじめ」「非行」「心の病気」「自殺予防」などの事例をもとに解説し、また、グループ討論を通じて自ら積極的に指導・援助できる資質を身に付ける。さらに、保護者への支援、他の専門機関との連携のあり方等について

《テキスト》

コンパス教育相談 住本克彦編著 建帛社 なお、講義時に適宜プリント資料を配付する□

□

《参考図書》

文部科学省（編）『生徒指導提要』（2022）  
[https://www.mext.go.jp/content/20230220-mxt\\_jidou01-000024699-201-1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20230220-mxt_jidou01-000024699-201-1.pdf)よりダウンロード□

□

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
	学校における教育相談の必要性和意義について説明できる
	教育相談を支える心理学的理論およびアセスメント、カウンセリング技法について説明できる
	学校現場における様々な問題に対して、その問題の重要性を理解した上で、具体的な対応を考え出すことができる

《授業外学習》

テキストを、授業前学習として自己の小・中・高校での体験と重ねながら読むとともに、授業後の振り返りとして、学習内容と関連付けながら読み込むことで、教育相談の理論や方法の基礎的な力量の定着を図る。また、教育に関する時事的な問題に関心を持ち、新聞、雑誌、テレビ、インターネット等の情報を分析するとともに、文部科学省通知や国立教育政策研究所資料、各種審議会答申等の検討を通して、今日求められている教育相談の実践内容について主体的に考察する態度を養うことをめざす。なお、積極的に子どもと関わるボランティア体

《学習状況・理解度の確認》

授業内のロールプレイやグループワーク、事例検討等における発言・発表や、授業内小レポートの内容等から理解度を測る。加えて、そこからみえてきた課題について全体協議を行い、理解度の深まりを捉える

《備考》

講義だけでなく、課題に応じて、ロールプレイや事例研究、心理検査実習などの演習にも取り組むので、毎時間授業に出席し、積極的に学習に取り組んでほしい。また、自分の小・中・高等学校時代の経験を振り返り、授業中の教師の立場から考えてほしい。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	70
発表・実技	0
授業内課題	30
その他（ ）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	学校における教育相談の必要性和意義	学校における教育相談の必要性和意義について説明し、学校現場におけるその重要性について理解を深める□	テキスト1章を読む	45
2	教育相談を支える心理学の理論	教育相談を支える心理学の理論について説明し、その理論的背景について理解を深める□	テキスト2章を読む	45
3	教育相談におけるアセスメント	教育相談におけるアセスメントの重要性について説明し、教育現場におけるアセスメントの活用について理解を深める□	テキスト4章を読む	45
4	教育相談に活かすカウンセリングの基本技法 (1)	カウンセリングの基本技法について説明し、その演習をとおして、カウンセリングにおける基本的姿勢に対する理解を深める□	テキスト7章3節、10章3節を読む	45
5	教育相談に活かすカウンセリングの基本技法 (2)	SSTやストレスマネジメントなどの開発的カウンセリングの理論と技法についての理解を深める	テキスト6章を読む□	45
6	幼児期・児童期・青年期の発達課題に応じた教育相談	幼児期・児童期・青年期の発達課題に応じた教育相談について説明し、その発達段階に応じた対応について理解を深める□	テキスト3章を読む	45
7	いじめ問題の理解と対応	いじめ問題の理解と対応について説明し、その問題に応じた対応について理解を深める□	テキスト5章1節を読む	45
8	不登校問題の理解と対応	不登校問題の理解と対応について説明し、その問題に応じた対応について理解を深める	テキスト5章2節を読む	45
9	虐待・非行問題の理解と対応	いじめ問題の理解と対応について説明し、その問題に応じた対応について理解を深める	テキスト5章4節、7章2節を読む	45
10	特別な支援を必要とする子どもの理解と対応	虐待・非行問題の理解と対応について説明し、その問題に応じた対応について理解を深める	テキスト9章を読む	45
11	保護者支援のあり方	保護者支援のあり方について説明し、保護者への対応について理解を深める	テキスト7章を読む	45
12	チーム学校で行う教育相談のあり方	チーム学校で行う教育相談のあり方について説明し、学校現場におけるその重要性について理解を深める	テキスト8章を読む	45
13	専門機関との連携	専門機関との連携について説明し、学校現場におけるその重要性について理解を深める	テキスト10章、12章を読む	45
14	教師のメンタルヘルス	教師のメンタルヘルスについて説明し、学校現場におけるその重要性について理解を深める	テキスト11章を読む	45
15	全体の総括	授業全体の総括を行い、試験に向けた内容の整理を行う	自己の経験を事例としてまとめ	60

《専門教育科目》

科目名	教育哲学	科目ナンバリング	T04L22084
担当者氏名	森 秀樹	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選
		開講年次・開講期	2 年 ・ I 期

《授業の概要》

この授業では、現代の教育で生じている様々な現象について教育哲学の観点から考察を行う。その過程で、教育の基本的概念、教育の歴史や思想について理解し、子ども・教師・家庭・学校・社会といった教育に不可欠な事柄の間の相互関係について考えを深めていく。そして、それらの考え方に基づいて現代の教育の色々な課題について考察を行い、教育を実践していくための出発点を準備する。

《テキスト》

伊藤潔志編著『哲学する教育原理』（教育情報出版）2019.

《参考図書》

伊藤潔志編著『哲学する教育原理』（教育情報出版）2019.

《授業外学習》

【予習】前回は指示された課題について自分なりの考え方をまとめておく。

【復習】授業の内容について整理するとともに、授業を通して自分が考えたことをまとめて、小レポートとして提出する。

《学習状況・理解度の確認》

《授業外学習》で指示した【予習】と【復習】の内容をまとめた小レポートを次回の授業までに提出してもらおう。優れたものは次回にコメントをつけて紹介する。

《備考》

第2回から第14回に関する小レポートの得点の総和に基づいて成績評価を行う。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	1-3子どもと環境の関係を理解する力	子どもの学びが環境との相互作用の中で行われるということをもとに具体的な事例とともに説明できる。
○	1-1子どもの発達を理解する力	子どもの発達や成長を見取る観点を学び、それを様々な場面に適用し、自分なりの言葉で説明できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	100
その他( )	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	現代の教育について教育哲学の観点から考察するという講義の目的を理解し、全体の構成と毎回の受講の仕方について理解する。	授業内容の整理と次回の予習	45
2	教育とは何か？	教育が社会や時代の状況に応じて様々な現れ方をすることを学習し、それらに共通している本質的な内容について考察する。	授業内容の整理と次回の予習	60
3	学校とは何か？	学校教育が社会や時代の状況を反映したものであることを理解するとともに、現代において学校教育が担う役割について考察する。	授業内容の整理と次回の予習	60
4	学ぶとはどのような出来事か？	発達や学習の過程を具体的に記述していく中で、人間は環境との相互作用の中で発達/学習するという構造の重要性について考察する。	授業内容の整理と次回の予習	60
5	子どもとはどのような存在か？	子ども像の歴史的な変遷をその都度の社会の教育観との関係の中で振り返り、現代における子ども像と教育観について考察する。	授業内容の整理と次回の予習	60
6	学級とは何か？	現在の学校教育の核となっている「学級」について記述を行い。その果たすべき役割と問題点について考察する。	授業内容の整理と次回の予習	60
7	学力とは何か？	日常的に用いられる「学力」を人間の発達や社会的活動の観点から記述しなおし、それに基づいて学力観の変遷の意味について考察する。	授業内容の整理と次回の予習	60
8	教えることと学ぶこと	教育思想の大きな流れを振り返りつつ、それを手がかりとして教えることと学ぶこととの関係について考察する。	授業内容の整理と次回の予習	60
9	授業とは何か？	授業についての考え方の歴史を振り返ることで、授業の本質的な構成要素を理解し、現代において求められる授業のあり方について考察する。	授業内容の整理と次回の予習	60
10	道徳をなぜ学ぶのか？	道徳とは何かについて考察することによって、その本質を理解するとともに、道徳教育のあり方について考察する。	授業内容の整理と次回の予習	60
11	グローバル化時代の教育	グローバル化において発生している様々な問題について分析を行い、そのような社会における教育のあり方とその課題について考察する。	授業内容の整理と次回の予習	60
12	異文化理解教育	国際化の進展の中で生じる文化間の軋轢の本質を記述することで、異文化を理解し、他者と共存するための教育について考察する。	授業内容の整理と次回の予習	60
13	ケアの教育	ケアについての思想を振り返ることで、子どもが不安なく成長できる環境を整えるためにケアという考え方が不可欠となることを学ぶ。	授業内容の整理と次回の予習	60
14	哲学対話	「主体的で対話的な深い学び」を実践するための一つの方法として「哲学対話」がある。その基本的なあり方を体験する。	授業内容の整理と次回の予習	60
15	リフレクション	講義全体を振り返り、相互の関連を確認するとともに、各自の理解と考えを全体で共有する。	授業全体のふりかえり	45

《専門教育科目》

科目名	教育方法・技術論			科目ナンバリング	T04L21096
担当者氏名	河野 稔, 勝見 健史			担当形態	複担
授業方法	講義	単位・必選	2	・ 選	開講年次・開講期
					1 年 ・ II 期

《授業の概要》

これからの社会を生きる子どもたちを育成するために、どのような授業をすれば上手く教えられるのか、どのように教材や学習環境を工夫すれば学習者は上手く学べるのかを学習する。インストラクショナルデザインの考え方に基づいて、授業設計にかかわる基本的な考え方、授業場面での指導技術、ICT（情報通信技術）の効果的な活用や情報社会の中で学び続ける力の育成方法を学ぶとともに、学習指導案を実際に作成し、受講生間で評価することで、授業設計の一連のプロセスを学ぶ。

《テキスト》

稲垣忠編著(2022)『教育の方法と技術 Ver. 2』北大路書房

《参考図書》

勝見健史(2023)『国語科 主体的学習における教師の「指導」』文溪堂、文部科学省(2017)『小学校学習指導要領解説』、文部科学省(2018)『幼稚園教育要領解説』等

《授業外学習》

予習では、事前にテキストの授業範囲を読み、指定された事前課題に取り組むこと。復習では、指定された事後課題に取り組むとともに、授業で取り上げたテキストの各章末の章末問題に取り組むこと。第5回の授業企画書の作成、第15回までの授業パッケージの作成は、授業中に作成および発表準備の時間は取れないため、グループ（制作チーム）のメンバーで協力して授業外時間に制作活動を進めておくこと。

《学習状況・理解度の確認》

小テストや提出物にはコメントを付して返却するとともに、口頭発表には講評を行う。オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

ディスカッションやグループワークやプレゼンテーションを行う、ICT活用双方向授業です。とくに授業パッケージの作成はグループで活動します。主体的かつ意欲的に授業に参加することを期待します。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力	子どもに育むべき資質・能力を理解し、教育方法を工夫する意義を説明できる。
◎	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を	学習指導案の基本的な要素と作成のながれを理解し、実際に設計できる。
○	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	学習者を支援する基本的な指導技術を身につけ、活用することができる。
○	3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力	ICT機器・教材の活用法を理解し、授業設計の際に適切に位置づけることができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	50
発表・実技	20
授業内課題	30
その他( )	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	教師という仕事における教育の「方法」と「技術」	本講義全体のガイダンス。教師という仕事における「方法」「技術」の意味と意義を理解する。	配布資料・参考図書で内容確認	45
2	教育方法の前提となる教師の「みる」力 (1)	教師の「教える」専門性を支える、教師の子どもを「みる」力の前提性・重要性について理解する。	配布資料・参考図書で内容確認	45
3	教育方法の前提となる教師の「みる」力 (2)	演習を通して、子どもを指導するにあたって具体的事実の意味を捉えることの意義について考察する。	配布資料・参考図書で内容確認	45
4	将来を生きる子どもたちに必要な「学力」とは	今、育てるべき「学力」の内容と構造、そのために必要な教師の「指導」の内容について理解する。	配布資料・参考図書で内容確認	90
5	学力育成の教育方法としての「指導と評価の一体化」	具体的な「方法」「技術」の存在に着目し、学力育成と「指導と評価」の関係性について理解する。	配布資料・参考図書で内容確認	60
6	授業づくりとそのプロセス、学習評価のデザイン	授業づくりのプロセス、学習目標と評価を理解する。授業パッケージのチームをつくり、テーマと学習目標・評価を考える。	テキストの第3章と第4章を通読	90
7	学習環境のデザインとデジタル化、授業企画書の発表	学習環境を構成する要素や資源を理解する。授業パッケージで想定するテーマを実施する上で必要な環境を検討する。	テキストの第5章を通読	90
8	授業を支える指導技術と学びを引き出す指導技術	ICT活用を含め、教師として学習者中心の学びのための指導技術を理解する。授業パッケージでの学び方を紹介する。	テキストの第6章と第7章を通読	90
9	学習指導案をつくる (1) 学習目標の設定	学習指導案の構成要素および学習目標の明確化について理解する。授業パッケージのテーマについて学習目標を定義する。	テキストの第8章を通読	60
10	学習指導案をつくる (2) 深い学びを導く教材研究	教科書等の役割、教材研究としての課題分析を理解する。授業パッケージの学習目標について課題分析図を作成する。	テキストの第9章を通読	90
11	学習指導案をつくる (3) 主体的・対話的な学習過程	協働学習や自己調整学習を理解し、探求型のアプローチを確認する。授業パッケージのテーマについて学習過程を作成する。	テキストの第10章を通読	90
12	学習指導案をつくる (4) 学びが見える評価方法	ルーブリック等の学習の質を見極めるための評価方法を理解する。授業パッケージのテーマについて評価計画を作成する。	テキストの第11章を通読	60
13	ICT・デジタル教材の活用、情報活用能力の育成	ICTの活用や情報活用能力を育成する学習場面を確認する。授業パッケージでのICT活用と意識する情報活用能力を検討する。	テキストの第12章と第13章を通読	90
14	これからの学習環境とテクノロジーの役割	テクノロジーによる新しい学びの姿を整理する。ICT環境における学校と教師の役割を検討する。授業パッケージをまとめる。	テキストの第14章を通読	90
15	模擬授業の実施と授業の改善、授業のまとめ	授業内容をふりかえるとともに、授業パッケージを仕上げて模擬授業を実践する。	テキストの第15章を通読	90

《専門教育科目》

科目名	教職入門	科目ナンバリング	T04L11085
担当者氏名	古田 薫, 別惣 淳二	担当形態	共担
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 必
		開講年次・開講期	1 年 ・ I 期

《授業の概要》

教職とは何か、教員の社会的役割は何か、教員の仕事とはどのようなことなのかについてさまざまな角度からアプローチし、教職の意義についての理解を深める。実際の教員の「仕事」や「立場」を、授業、校務分掌、保護者や地域と連携の観点から捉え、チームとしての学校の在り方を考察するとともに、法的な位置づけを理解する。また、教員として求められる資質や能力はどのようなものかについて理解し、自らの課題を明らかにする。

《テキスト》

『教職論（ミネルヴァ教職専門シリーズ3）』 広岡義之・津田徹（編著）、ミネルヴァ書房

『法規で学ぶ教育制度（よくわかる！教職エクササイズ7）』

《参考図書》

授業中に指示します。

《授業外学習》

配布された資料を読んでレポートを作成する。

《学習状況・理解度の確認》

毎回、授業終了時に提出する学習記録カードをコメントを付して返却する。また、質問や重要なコメントに関しては授業内で取り上げて解説する。

《備考》

必要に応じて、グループディスカッション、クラス全体での討議等を実施し考察を深める。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 1-2 使命感と情熱をもって教育・保育を実践する力	教員の社会的役割とその歴史の変遷を理解し、自分なりの教職観を持って、自身の課題を省察することができる。
◎ 1-3 多様な人と協働し、地域社会に貢献する力	教員の種類と職務、校務分掌について理解している。
○ 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	教員に関わる制度について理解している。
○ 3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力	教員に求められる資質能力と研修について理解している。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	60
小テスト	10
レポート	20
発表・実技	5
授業内課題	5
その他( )	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	教職とは	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持ち、教員を目指すものとしての姿勢について考察する。	教員採用試験について	60
2	さまざまな教職観とその歴史の変遷	・教職観の歴史の変遷をたどりながら、教職とは何かを考察し、自分自身の教職観、教員像を獲得する。	良い教員とは	60
3	教員に求められる資質・能力	・教員に求められる資質・能力を、さまざまな答申やデータから読み解き、自分自身の課題を明らかにする。	プリントを読んで感想を書く	60
4	教員養成と教員免許制度	・教員免許制度の法的側面を学び、教員養成の仕組みを理解する。 ・教員採用試験の概要を知り、採用試験までの展望を持つ。	採用試験合格に向けた計画	45
5	教員の職務①:教員の種類と職務、校務分掌、チーム学校	・学校の教育活動を支える教員組織と役割分担、連携協力、チーム学校の意義を理解する。	校務分掌について調べる	45
6	教員の職務②:学習指導、生徒指導、その他	・学習指導、生徒指導、進路指導、教育相談、その他の教員の職務について理解する。	教員の一日をレポートする	45
7	教員の職務③:保護者・地域との連携協力	・保護者や地域住民との連携協力の意義を理解し、どのようなあり方が望ましいかを考察する。	事例を調べる	45
8	教員の職務④:アカウントビリティと学校運営	・学校運営のプロセスを理解する。 ・学校の果たすべきアカウントビリティとは何かを理解する。	学校評価の結果を分析する	45
9	教員の人事管理①:勤務	・地方公務員法および教育公務員特例法等から教員の勤務と身分について理解する。	プリントを読んで感想を書く	60
10	教員の人事管理②:任免と勤務の監督、懲戒	・教員の任免に係る制度、教員の身分保障と分限、懲戒等について理解する。	プリントを読んで感想を書く	60
11	教員の人事管理③:教員評価	・教員評価の意義と課題について理解する。	プリントを読んで感想を書く	60
12	教員の資質向上と研修	・教員の研修制度について理解し、資質向上のためにどのような取り組みを行う必要があるかを考察する。	教員としてのキャリア計画	45
13	教員の労働環境	・教員の勤務実態、労働条件について、事例にそって理解する。	プリントを読んで感想を書く	60
14	教師という仕事—やりがいと悩み—	・教員としてのやりがいや悩みについて、さまざまな文献を通して教員の生の声を聞き、教職に対する自分自身の考えを整理する。	事例を調べる	45
15	目指す教員像と課題	・学習を振り返って、教職とは何かを考察する。 ・どのような教員になりたいかを、多様な視点から述べ、自らの課題を	どのような教員をめざすか	60



《専門教育科目》

科目名	個別教育計画概論	科目ナンバリング	T03L22065
担当者氏名	松田 信樹	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選
		開講年次・開講期	2 年 ・ I 期

《授業の概要》

令和の日本型学校教育の在り方として提唱された「個別最適化された学び」について、その理念と実践について考えるとともに、「個別最適化された学び」の実現に必要な「指導の個別化」と「学びの個性化」を実践レベルに落とし込む手立てとしての個別教育計画（IEP）の作成について考察する。

《授業外学習》

授業時間中に指示された課題に取り組むために、資料の収集やレポートの作成に取り組むことが求められる。

《テキスト》

奈須正裕・伏木久治（編著） 2023 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指して 北大路書房

《学習状況・理解度の確認》

提出を課せられた授業内課題等を通して、理解度を把握する。質問等にはオフィスアワーに対応する。

《参考図書》

市川奈緒子・仲本美央 2022 保育ナビブック 子ども一人ひとりがかがやく個別指導計画～保育現場の実践事例から読み解く～ フレーベル館  
加藤美由 2022 個別最適な学び 協働的な学びの考えと実践

《備考》

Introduction to Individualized Education Plan ディスカッションやグループワークを交えて授業を行う。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 2-1 子どもの個別的理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する	個別最適化された学びについて理解を深める
○ 2-3 教育・保育に関わる諸課題について論理的に考える力	個別教育計画について理解を深める
○ 3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力	学習者の個性を的確に捉えて、個別教育計画に反映させることができる

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	0
レポート	30
発表・実技	0
授業内課題	50
その他（授業への積極的参加度）	20
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	導入	学校教育をめぐる諸問題について考察する。	資料収集とレポート作成 授	120
2	小学校学習指導要領	個を重視した教育について、小学校学習指導要領に基づいて考察する。	資料収集とレポート作成 授	120
3	幼稚園教育要領	個を重視した教育について、幼稚園教育要領に基づいて考察する。	資料収集とレポート作成 授	120
4	令和の日本型学校教育	「中央教育審議会答申」等を精読し、個別最適化された学びについて理解を深める。	資料収集とレポート作成 授	120
5	令和の日本型学校教育	「中央教育審議会答申」等を精読し、個別最適化された学びについて理解を深める。	資料収集とレポート作成 授	120
6	令和の日本型学校教育	「中央教育審議会答申」等を精読し、個別最適化された学びについて理解を深める。	資料収集とレポート作成 授	120
7	指導の個別化	「適性処遇交互作用」や「プログラム学習」など、指導の個別化に関わる教育について振り返る。	資料収集とレポート作成 授	120
8	個別最適化された学びの実践	自由進度学習の取り組みについて探究する。	資料収集とレポート作成 授	120
9	個別最適化された学びの実践	奈良の学習法の実践について探究する。	資料収集とレポート作成 授	120
10	個別最適化された学びの実践	特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する教育について探究する。	資料収集とレポート作成 授	120
11	保育における個別保育計画	3歳未満の子どもを対象とした個別の指導計画の作成について探究する。	資料収集とレポート作成 授	120
12	保育における個別保育計画	3歳未満の子どもを対象とした個別の指導計画の作成について探究する。	資料収集とレポート作成 授	120
13	特別支援教育における個別教育計画	特別支援教育における個別教育支援計画と個別指導計画について探究する。	資料収集とレポート作成 授	120
14	特別支援教育における個別教育計画	特別支援教育における個別教育支援計画と個別指導計画について探究する。	資料収集とレポート作成 授	120
15	個別教育計画（IEP）に関わる海外での取り組み	個別教育計画（IEP）に関するアメリカ合衆国とフィンランドでの取り組みについて探究する。	資料収集とレポート作成 授	120

《専門教育科目》

科目名	生徒指導・進路・キャリア教育の理論と方法			科目ナンバリング	T04L22098
担当者氏名	新井 肇			担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2	・ 選	2年・Ⅱ期

《授業の概要》

生徒指導・進路指導の諸課題を総合的に理解するとともに、実践において求められる理論と技法の習得をめざす。いじめ・不登校・暴力行為・非行などの従来型の問題行動に加え、児童虐待・ネット犯罪・自殺等の深刻な児童生徒の問題行動の情勢を捉え、その原因・背景を理解し、生徒指導実践において必要とされる方法（ガイダンス・カウンセリングなど）に関する理論と技法について学習する。また、進路指導・キャリア教育の目的・内容・方法についての基礎的理解を図るとともに、青少年

《テキスト》

文部科学省（編）『生徒指導提要』（2022）  
[https://www.mext.go.jp/content/20230220-mxt\\_jidou01-000024699-201-1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20230220-mxt_jidou01-000024699-201-1.pdf)よりダウンロード 講義時に適宜プリント資料を配布する

《参考図書》

日本生徒指導学会（編）『現代生徒指導論』（2015）学事出版

《授業外学習》

生徒指導の基本書である『生徒指導提要』を、授業前学習として自己の小・中・高校での体験と重ねながら読むとともに、授業後の振り返りとして、学習内容と関連付けながら読み込むことで、生徒指導の理論や方法の基礎的な力量の定着を図る。また、教育に関する時事的な問題に関心を持ち、新聞、雑誌、テレビ、インターネット等の情報を分析するとともに、文部科学省通知や国立教育政策研究所資料、各種審議会答申等の検討を通して、今日求められている生徒指導及び進路指導・キャリア教育の実践内容について主体的に考察する態度を養う

《学習状況・理解度の確認》

授業内のグループワークや事例検討等における発言・発表や、個別課題に関する小レポートの内容等から理解度を測る。加えて、そこからみえてきた課題について全体協議を行い、理解度の深まりを捉える。

《備考》

課題に応じて、グループ協議や事例研究などの演習にも取り組むので、毎時間授業に出席し、積極的に学習に取り組んでほしい。また、授業で取り上げるテーマに関して、自分の小・中・高等学校時代の経験を振り返り、授業中に教師から、自分の内面の視点からコメントを

《成績評価の方法と評価の割合》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標	評価方法(%)	
学校教育における生徒指導・進路指導・キャリア教育の位置づけの理解	生徒指導・進路指導・キャリア教育の概念を明確に理解し、学校の全教育活動に通底する基本的な機能であることを理解する。	試験	0	
児童生徒理解に基づく生徒指導実践の理論と方法	児童生徒の問題行動や内的葛藤に対する理解を深め、生徒指導の多様な方法を身につけ、方向性を持って様々な問題行動に対する適切な指導方法を実践できる。	小テスト	0	
進路指導・キャリア教育の理論と方法	進路に関する課題について理解し、進路指導・キャリア教育の基礎的な知識と指導方法の習得をめざす。	レポート	70	
学校内外の連携の基づく組織的生徒指導の進め方	学校における危機管理能力や学校内外の連携を進めるコーディネート能力につながる基礎的な力量を形成することを目標とする。	発表・実技	0	
		授業内課題	30	
		その他（ ）	0	
		合計	100	

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	生徒指導と進路指導の教育的意義と目標	生徒指導と進路指導の意義・目的・内容について概観し、生徒指導と進路指導の教育的意義と目標等について学ぶ。	自己の生徒指導経験を振り返る	45
2	生徒指導・進路指導・キャリア教育の定義・歴史・理論	日本の学校における生徒指導・進路指導の歴史を振り返り、生徒指導・進路指導・キャリア教育や定義、基盤となる理論について検討する。	『生徒指導提要』の1章を読む	60
3	教育課程の諸領域と生徒指導・進路指導の位置づけ	生徒指導・進路指導が学校の全教育活動に通底する基本的な機能であることを理解し、各教科、特別活動、道徳等との関係性について理解する。	『生徒指導提要』の2章を読む	60
4	生徒指導における児童生徒理解と理論と実際	生徒指導における児童生徒理解の意味と理解のための理論、及び実際の教育活動において求められる技法について学ぶ。	『生徒指導提要』の3章を読む	60
5	非行問題の理解と対応	暴力行為、インターネットや性に関する課題など、広く非行問題を理解するとともに、基本的な生活習慣の確立、安全教育の重要性を理解する。	新聞等から最近の少年犯罪を検	60
6	不登校の理解と対応	不登校・ひきこもり・高校中退について心理学・社会学の理論による検討を行い、非社会的問題行動への対応について学ぶ。	『生徒指導提要』の6章を読む	60
7	いじめ問題の理解と対応	いじめを心理学、社会学の視点から理解し、「いじめ防止対策推進法」制定以後の対応の方向性と課題について学ぶ。	母校のいじめ防止基本方針を検	75
8	児童生徒の自殺予防対策の理解と方法	自殺の現状と背景、リスクの高い児童生徒への関わり、学校危機への対応について学ぶとともに、自殺予防教育の進め方を理解する。	自殺対策基本法を読む	60
9	生徒指導に関する主要法令の理解と人権教育	校則、懲戒、体罰等に関する主要法令について理解し、児童生徒の人権保障の視点から生徒指導の方向性について検討する。	『生徒指導提要』の5章を読む	60
10	生徒指導の校内体制の組織化と関係機関との連携・協働	組織的生徒指導の重要性と、児童虐待や家庭の貧困等、学校だけでは解決困難な問題に関する専門機関との連携の必要性を理解する。	『生徒指導提要』の4・8章を	90
11	進路指導とキャリア教育の意義と内容	職業観・勤労観の育成、自己理解の促進、生き方あり方など、多様な課題をもつキャリア教育の意義について学ぶ。	自分が受けた進路指導を振り返	45
12	進路指導・キャリア教育の理論的背景	キャリア教育に関する国内外の諸理論を概観する。特に、最近の理論的動向（シャイン、クランボルツ、等）について学ぶ。	関心のあるキャリア理論を調べ	75
13	進路指導における児童生徒理解の方法	キャリアカウンセリングの理論と実際について、ロールプレイなどをまじえて体験的に学ぶ。	『生徒指導提要』の5章3節を	45
14	キャリア教育の先進的実践事例の検討	日本のキャリア教育の代表的な実践事例を紹介し、今後の取り組みの方向性と課題について学ぶ。	先進的な実践事例について調べ	90
15	学校における生徒指導・進路指導の今後の課題	生徒指導、及び進路指導の課題について、各自の所見を発表し、全体で討議するとともに、講義全体の振り返りを行う。	自己の経験を事例としてまとめ	90

《専門教育科目》

科目名	総合的な学習の理論と実践			科目ナンバリング	T04L22094
担当者氏名	林 敦司, 勝見 健史			担当形態	オムニバス
授業方法	講義	単位・必選	2	・ 選	開講年次・開講期 2 年 ・ I 期

《授業の概要》

総合的な学習の時間の意義や内容、カリキュラム、探究的な学習と横断的・総合的な学習展開について、学校の実践レベルでの具体的な事例の分析とそれに基づくディスカッション及びグループワークを通して考察する。また、年間指導計画、単元の内容と立案、指導・評価の進め方について具体的なイメージを形成し、総合的な学習の時間の実施に必要な知識や技能を習得する。

《テキスト》

- 『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』文部科学省、東洋館出版
- 『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開』(小学校編) 文部科学省

《参考図書》

- 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』(小学校総合的な学習の時間) 国立教育政策研究所、東洋館出版

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	3-2 自らの教育・保育実践を省察する力	評価規準の指導計画への位置づけと、観点別学習状況の進め方を説明できる。
◎	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を計画する力	総合的な学習の時間の充実に必要な条件整備について考え、教育環境をデザインすることができる。

《授業外学習》

- 授業前にテキストの指定箇所を読んで、疑問点や課題をノートに書くなど、課題意識を持って授業に臨むこと。
- 授業中での発表やグループ協議から得た学びをもとに、授業構想の見直しや学習指導案の改善を図ること。
- 総合的な学習の時間の探究課題となり得る事柄について、新聞記事や文献などから情報を収集すること。

《学習状況・理解度の確認》

- 毎回の授業にレポートを課し、授業の感想やグループワークに関する記載を求める。
- 授業前の小テストで、知識や用語の定着を確認する。

《備考》

- 毎回の授業は、講義とグループワークで構成する。
- 受講者が小学校で経験した学習を想起し、具体的な学習イメージを持って授業に参加してほしい。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	10
レポート	50
発表・実技	40
授業内課題	0
その他(授業演習)	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	本講義の内容や学習方法について確認するとともに、自身の経験を想起しながら具体的な学習イメージを持つ。	ワークシート	45
2	「総合的な学習の時間」設置の目的と学習指導要領	現代の子供たちの学力の実態と課題から、総合的な学習の時間の意義と教育活動全体における役割を考察する。	テキスト1 p 1~p 7	45
3	「総合的な学習の時間」の目標と内容	学習指導要領改訂のポイントを踏まえ、総合的な学習の時間の目標と内容、育成する資質・能力について考察する。	テキスト1 p 8~p 23	60
4	「総合的な学習の時間」の学習指導の基本的な考え方	総合的な学習の時間の実践上の課題を明らかにしながら、探究的な学習の指導のあり方について考察する。	テキスト2 p 24~p 58	90
5	カリキュラム・デザイン作成のワークショップ	総合的な学習の時間におけるカリキュラム・マネジメントの三つの側面に留意して、全体計画と年間指導計画を作成する。	テキスト2 p 60~p 88	90
6	作成したカリキュラム・デザインの分析と検討	作成した年間指導計画の構想や内容について、グループで分析し検討する。	プリントの整理	60
7	単元デザイン作成のワークショップ	作成の手順を確認し、学習過程が探究的になるよう留意しながら、単元計画を具体的に書き表す。	テキスト2 p 89~p 105	90
8	作成した単元デザインの分析と検討	作成した単元計画の構想や内容について、グループで検討・吟味してよりよいものにする。	プリントの整理	60
9	授業デザイン作成のワークショップ①	学習指導案の内容と作成のための手順を確認し、具体的な指導過程をデザインする。	学習指導案の作成	120
10	授業デザイン作成のワークショップ②	総合的な学習の時間の指導の基本方針を踏まえ、指導の意図や構想を適切に表現した学習指導案を作成する。	学習指導案の作成	120
11	作成した授業デザインの分析と検討	作成した学習指導案の、①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現、の探究のプロセスを確認する。	学習指導案の見直し・改善	120
12	マイクロティーチング	作成した学習指導案を用いて模擬授業を行い、探究的な学習の指導のあり方について検討する。	学習指導の振り返り	120
13	実践事例を基にした評価方法の考察	総合的な学習の時間の評価のあり方を理解し、児童の学習状況と教育課程の評価について具体的な方法を検討する。	テキスト2 p 106~p 111	60
14	「総合的な学習の時間」を支える体制整備	体制整備のための四つの視点に着目し、実践事例についてその効果を検討する。	テキスト2 p 115~p 13	90
15	講義のまとめ	本講義で学んだ総合的な学習の時間の理論と指導法を振り返り、教育課程において果たす役割について再考する。	レポートの作成	120

《専門教育科目》

科目名	道徳教育論	科目ナンバリング	T04L22093
担当者氏名	林 敦司	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選
		開講年次・開講期	2 年 ・ I 期

《授業の概要》

道徳教育の意義と理論について、学校における具体的な取組を分析・検討することで理解を深める。また、道徳科の特質を踏まえながら、「考え、議論する道徳」を実現する授業づくりを進める。学習指導案の作成と模擬授業に重点を置き、①読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習、②問題解決的な学習、③道徳的行為に関する体験的な学習など、多様な指導方法にチャレンジすることで、授業構想力と実践的指導力を身に付ける。

《テキスト》

- 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科道徳』文部科学省、廣済堂あかつき株式会社
- 『新道徳教育全集 第3巻』日本道徳教育学会、学文社

《参考図書》

- 『道徳教育を学ぶための重要項目100』貝塚茂樹・関根明伸 編著、教育出版
- 『「道徳科」評価の考え方・進め方』永田繁雄 編集、教育開発出版

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
○ 1-1 豊かな人間性をもって人と関わる力	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の意義、その要としての道徳科について説明できる。
○ 1-2 使命感と情熱をもって教育・保育を実践する力	道徳科の授業を多様かつ柔軟に発想し、学習指導案を作成することができる。
◎ 3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力	児童の学習状況や発言に配慮しながら、柔軟な授業展開を試みることができる。

《授業外学習》

- ・事前にテキストの指定箇所を読んで、専門用語や疑問点をノートに書くなど、課題意識を持って授業に臨むこと。
- ・配布された道徳教材を読んで分析を行い、自分なりの授業構想を練っておくこと。
- ・毎回の授業の後に、ノートを整理するなど自己学習による補充を行うとともに、授業中での発表や話し合いから得た学びをもとに、授業構想の見直しや学習指導案の改善を図ること。□

《学習状況・理解度の確認》

- ・レポート（学習指導案）は、コメントを付して返却する。
- ・前半のまとめのテストでは、採点后に要点の解説を行うことで知識の確実な定着を図る。

《備考》

- ・受講者が教師役と児童役になって模擬授業を実践し、そのリフレクションを行う対面の授業である。
- ・課題意識を持って指導案作成や模擬授業に取り組んでほしい。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試験	0
小テスト	20
レポート	40
発表・実技	30
授業内課題	10
その他（授業演習）	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	道徳授業の動画を視聴しながら、本講義の学習の見通しと課題を持つとともに、受講方法を確認する。	テキスト1 p 10～p 21	45
2	近代日本の道徳教育の変遷と教科化の背景	我が国の道徳教育の変遷と世界の道徳教育の動向を踏まえ、現状と課題、道徳科に求められている課題を考察する。	テキスト1 p 1～p 9	60
3	道徳教育の意義と道徳性の発達	学校教育全体で取り組む道徳教育の意義と、児童の心の成長課題について理解する。	テキスト2 p 42～p 56	60
4	道徳科の内容と指導計画	内容項目の構成や取扱いについて理解し、道徳科の年間指導計画作成の方法や手順について考察する。	テキスト2 p 65～p 72	60
5	道徳科の授業①	具体的な授業実践をもとに、道徳科の特質を生かした授業づくりを進めるための基本方針を理解する。	テキスト1 p 78～p 86	90
6	道徳科の授業②	児童が問題意識を持って多面的・多角的に考えたり、感動を覚えたりする教材の活用について考察する。	テキスト2 p 125～p 13	90
7	道徳科の授業③	児童が問題意識を持って多面的・多角的に考えたり、感動を覚えたりする教材の活用について考察する。	これまでの授業内容の整理	90
8	前半のまとめ 授業づくりの構想	前半のまとめの小テスト（30分） 授業づくりに向けて構想を練る。	授業づくりのための教材選び	60
9	学習指導案の作成①	学習指導案の内容と作成のための主な手順を確認し、具体的な指導過程を構想する。	教材吟味と学習指導案の作成	120
10	学習指導案の作成②	道徳科の指導の基本方針を踏まえながら、指導の意図や構想を適切に表現した学習指導案を作成する。	学習指導案の作成	120
11	学習指導案の作成③	作成した学習指導案についてグループで話し合い、ねらいを達成するための指導方法や手立てを検討する。	学習指導案の見直し	120
12	模擬授業①	実施した模擬授業について、発問構成や指導過程等を吟味・検討し、改善を加える。	発問構成と板書計画の作成	120
13	模擬授業②	前時の振り返りをもとに模擬授業を行い、道徳科の授業づくりの実際についてその理解と実践的指導力の形成を図る。	学習指導案の改善と振り返り	120
14	道徳科の評価	道徳科における評価のあり方や具体的な方法を整理・検討し、ワークシートに指導要録の評価文を書く。	テキスト2 p 221～p 22	90
15	講義のまとめ	本講義で学んだ道徳教育や道徳科のあり方について話し合い、学習指導の具体的なイメージをもとに授業内容を整理する。	授業内容の整理とまとめ	60

《専門教育科目》

科目名	発達心理学	科目ナンバリング	T04L21089
担当者氏名	松田 信樹	担当形態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選
		開講年次・開講期	1 年 ・ II 期

《授業の概要》

人間の生涯に渡る発達の過程を理解することを目的とする。受胎の瞬間から始まり死をもって終結する一個人の発達の流れを、複数の発達段階に区分し、それぞれの発達段階における身体的・社会的・心理的発達の特徴を理解する。発達障害に関する基礎を理解することも目的とする。

《授業外学習》

参考図書として取り上げた図書を読むことを通して、授業で取り上げたテーマについて理解を深めてもらいたい。毎回の授業で配布する資料とテキストを復習し、授業で扱った重要事項について理解を深めること。

《テキスト》

『育ちと学びの心理学 ―こどもの成長に寄り添うために』  
松田信樹（著） あいり出版 2018

《学習状況・理解度の確認》

毎回の授業内容の理解度を確認するための小テストで学習状況と理解度を確認する。

《参考図書》

『よくわかる発達心理学 [第2版]』 無藤隆・岡本裕子・大坪治彦（編） ミネルヴァ書房 2009

《備考》

Developmental Psychology  
質問等には、オフィスアワーに対応する。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
◎ 2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	発達心理学の基礎的事項を人間発達の具体例に即して説明することができる。
○ 2-3 教育・保育に関わる諸課題について論理的に考える力	発達心理学の基礎的理解に基づき、教師としての教育的関わりについて論理的かつ実践的に考えることができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法 (%)	
試験	60
小テスト	20
レポート	0
発表・実技	0
授業内課題	20
その他 ( )	0
合計	100

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	発達心理学への導入	心理学の学問上の特徴、そして発達心理学では何をどのような目的をもって学ぶのかを理解する。	授業資料とテキストの復習	60
2	発達の定義と発達観	発達の定義について理解した上で、現代の心理学が描く発達観を明確にする。	授業資料とテキストの復習	60
3	発達の規定要因	人間発達の規定因は何かという問いを立て、遺伝要因と環境要因の観点から答えを探究する。	授業資料とテキストの復習	60
4	胎児期から新生児期	胎児の発達について、母体内環境の重要性に焦点を当てて学ぶ。新生児が秘める能力についても学ぶ。	授業資料とテキストの復習	60
5	新生児期から乳児期	赤ちゃんに生得的に備わっている特徴と、出生後1年間の赤ちゃんの発達について学ぶ。	授業資料とテキストの復習	60
6	乳児期から幼児期①	乳幼児期の発達について、母子関係の形成と深化の観点から学ぶ。	授業資料とテキストの復習	60
7	乳児期から幼児期②	乳幼児期の発達について、言語発達と遊びの発達の観点から学ぶ。	授業資料とテキストの復習	60
8	中間テストの実施と解説	発達観、発達の規定因、胎児期から乳幼児期までの心理的発達について、テストを通しての振り返りを行う。	授業資料とテキストの復習	60
9	幼児期から児童期	幼児期から児童期にかけての知的発達について、ピアジェ理論に依拠しつつ理解する。	授業資料とテキストの復習	60
10	児童期①	児童期の発達について、人間関係の発達に焦点を当てて学ぶ。	授業資料とテキストの復習	60
11	児童期②	児童期の発達について、学業に対するモチベーションに焦点を当てて学ぶ。	授業資料とテキストの復習	60
12	青年期	青年期の発達について、アイデンティティの形成を鍵概念として理解する。	授業資料とテキストの復習	60
13	成人期	成人期の発達について、親としての成長ならびに中年期危機に中心に学ぶ。	授業資料とテキストの復習	60
14	発達のつまずきと歪み	発達のつまずきと歪みについて理解し、発達障害をどのように捉えるべきかを考える。	授業資料とテキストの復習	60
15	期末テストの実施と解説	幼児期から成人期までの心理的発達、ならびに発達障害について、テストを通しての振り返りを行う。	授業資料とテキストの復習	60